



双塔

カトリック新潟教会

2016年8月
No. 339

故郷と被昇天

主任司祭 ラウル・バラデス



今年、六月にメキシコに行って来ました。多々ご迷惑をおかけしたことをお詫びします。

日本に帰って来た翌日、「神父さんの故郷はどういうところですか」とある方から聞かれました。「砂漠の境にあって、海も山もない、緑の少ないところで、家をいくら掃除してもすぐにホコリが溜まる場所です」と答えたら、「いや、きっと、何かいいところがあるでしょう」とその方はわたしを慰めてくれました。考えてみれば、いいところはありますが自慢するほどのものでもないのです。

しかし、豊かな自然にも恵まれず、人間の手でつくった胸を張ってお見せできるものは一つもないけれど、神様からの素晴らしい恵みをいただいています。それはマリア様です。

カトリックの世界で、メキシコと言えば毎年、600万人も集まるグアダルペのマリア様のことはすぐ思い浮かべられますが、実はメキシコ国内で聖母マリアの第二の巡礼地は、わたしの故郷サン・ホアン・デ・ロス・ラゴスなのです。

毎年、100万人が訪れる中規模の巡礼地です。地元の人はいずれほど熱心ではないが、もし大聖堂がなかったとしたら、多分、

わたしの町の経済は成り立たないでしょう。教会に殆ど行っていなかった母方の祖父は「このマリア様がしてくださる一番大きな奇跡とは、この怠け者どもの生活を援助することだ」と町の人についてつぶやいていました。

確かに、人口5万人の町にとって、この100万人の巡礼者は命綱にほかなりません。しかし地元の人々は経済効果を認めながらも、あまり信仰深いとは言えないのです。

故郷の人々の信仰生活は恥ずかしいのですが、祖父のような信仰深くない者も、被昇天の祝日だけは皆が集まるのです。昔からその日の巡礼者は、比較的少ないため、地元の人はお祝いに参加できません。この日、聖堂前の広場に設けられたスタンドまで行けたら直接、マリア像を見ることができます。ご像は普段、教会の祭壇の上に置かれているので、なかなか近くからは見られないのです。被昇天の日に、ご像は広場まで移されるので、集まった信心深い人、そうでもない人も聖マリアの取り次ぎで神からの祝福をいただくことができます。

「あなたのお祖父さんも広場の端っこに立って、照れながら、ソンブレロを取って、進化した涼しそうな頭を下げた祝福してもらっていたよ」という話を親戚から聞きました。今でも、頭を下げている教会嫌い祖父の様子を想像するだけで笑ってしまいます。

今年の被昇天の祝日には、神様からの祝福をいただきましょう。

平和、死者の永遠の憩いの恵みを願いましょう。

それは、各自の信仰深さによるものではなく、神からの贈り物だからです。

そよかぜ便り

■ みんなで“草取り” ---- 6月26日(日) ----

6月最後の日曜日朝から梅雨時の雨模様。しかし、ミサ後は青空が広がり、予定通り草取りを行った。最初は「これは取って大丈夫だよね？」と不安そうな声や楽しい会話が聞こえたが、しばらくするとみんなで黙々と刈り取り、終わってみれば刈り取った雑草は特大袋25個！終了後は、みんなで冷たい麦茶とチョコパンを美味しく頂き、互いの労をねぎらった。

また、草取りが済んだころ、寺尾教会の町田神父様が信徒と共に巡礼に来られ、聖堂前で行列をして「いつくしみの扉」を通り、「聖体賛美式」を行った。続いて午後、亀田教会の教会学校の生徒さんも見学に。雨のち快晴の賑やかな日曜日だった。

■ 米沢殉教祭 ---- 7月3日(日) ----



梅雨前線が日本を縦断した日曜日、米沢市も雨。今年も山形県米沢市北三原で、上杉家の家臣であった福者ルイス甘粕右衛門と53名の殉教ミサが、菊地司教様、千原神父様(山形)、楠神父様(山形)、パリヤント神父様(米沢)、伴神父様(鶴岡)、中沢神父様(イエズス・マリアの聖心会)の共同司式で捧げられた。

後半は少し晴れたものの結構な雨のため、会場に張られたテントの中でのミサとなり、山形や鶴岡、米沢か

らの10名の方々の堅信式も行われた。

2008年に188殉教者として列福してから、間もなく8年を迎える。



みんなの広場

「私ができる教会の仕事、あるかしら？」 そんな声に応えて、今月から各部の活動を紹介します！
どこも人出不足。あなたができることを探してください。 今月は『**典礼部**』です。



手が空いた時の“チョットお手伝い”でもOKです！
典礼部の仕事を通して、足を踏み入れたことがない香部屋や祭器具に触れて、“まだ知らないことを知る”チャンスにしませんか。
典礼部のスタッフに声を掛けてください。
(典礼部)

視線を祭壇の前に移してください。奇麗なお花が飾られています。

ミサ中に灯されるロウソクやホスチア、ぶどう酒がどこに置いてあって、どのような時にどのように使われるのかご存知ですか？

結婚式のうきうきする準備を体験したことがありますか？



カトリック新潟教会 月刊「双塔」 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行 / カトリック新潟教会 教会運営委員会 広報部
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656 TEL : 025-222-5024 FAX : 025-222-5054 <http://www.niigatacathedral.org>

